

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

千葉県千葉リハビリテーションセンター  
センター長 吉永 勝訓 殿

〒 162-0825  
所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F  
評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構  
認証評価機関番号 機構 02 - 005  
電話番号 03-5206-7831  
代表者氏名 理事長 水谷 正夫 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・ 評価者養成講習修了者 番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	水谷 正夫	福祉、経営	H0402001
	②	高木 恭子	経営	H1302001
	③	遠山 健二	福祉	H1202002
	④	安富 悠子	福祉	H0602001
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	医療型児童発達支援センター(主たる利用者が重症心身障害児者または肢体不自由児)			
評価対象事業所名称	児童発達支援センター「えぶり」「えぶりキッズ」		指定番号	1250100292
事業所連絡先	〒	266-0005		
	所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1丁目45番2		
	TEL	043-291-1831		
事業所代表者氏名	総合療育センター長 染屋 政幸			
契約日	2018年	6月	1日	
利用者調査票配付日(実施日)	2018年	8月	7日	
利用者調査結果報告日	2018年	8月	16日	
自己評価の調査票配付日	2018年	6月	1日	
自己評価結果報告日	2018年	8月	16日	
訪問調査日	2018年	8月	23日	
評価合議日	2018年	10月	12日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	家族へのアンケートによる利用者調査を補うために、家族や支援職員へのインタビューを行った。家族会に参加し、評価のご説明をするとともに、ご質問にもお答えした。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

年 月 日

事業者代表者氏名 印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>&lt;総合療育センターの理念&gt; 総合療育センターは、医療・福祉・教育・行政機関と連携しながら、療育サービスを包括的に提供し、地域の療育体制づくりに取り組みます。 ・医療ケアが濃厚で居住地の通所施設に充分通えない重症心身障害児者に、日中の生活の場と療育活動を提供します。 ・地域機関と連携し、重度の障害児者の受け皿を広げ、地域における社会参加を促します。</p> <p>&lt;運営方針&gt; 1)どんなに障害が重くても、医療的ケアが濃厚でもあたり前の療育を提供し、成長発達を促します。 2)重度の障害児者の生活の選択肢を広げ、いきいきと充実した日常生活を支援します。 3)一人ひとりの個性を尊重し、充実した生活と社会参加が出来るように支援します。 4)ご家族の介護負担の軽減を図り、安心して在宅生活を継続できるよう積極的に支援します。 5)県立施設としての役割を担い、地域機関に障害児支援のノウハウを伝え、千葉県全体を俯瞰し、地域の療育体制づくりに取り組みます。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての専門性を高め、障害が重くても成人期であっても、利用者の発達の可能性を追求した療育を提供する。</li> <li>・利用者の意思の表出手段を追求し、利用者本位の意思決定を支援する。</li> <li>・在宅障害児者の生活実態に思いを馳せ、家族の介護負担を軽減する。</li> <li>・センター虐待防止マニュアルを理解し、利用者の尊厳を守りより良い支援を提供する。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最重度の利用者一人一人の「いのち」に寄り添う支援を実践してほしい。</li> <li>・利用者の尊厳を守り、年齢相応のあたりまえの生活を送ることができるよう意識を持って支援する。</li> <li>・多職種と協働し、多職種の専門性を学びながら、自らの専門性を向上させてほしい。</li> <li>・利用者に温かい関心を寄せ、小さな表出も見逃さず利用者の気持ちを察する力を養ってほしい。</li> <li>・悩んでいる人、孤立しそうな人、勘違いしている人等がいたら、見て見ぬふりをせず、職員にも温かい関心を寄せ、積極的にコミュニケーションを図ってほしい。</li> </ul>

《事業所名：児童発達支援センター「えぶり」「えぶりキッズ」》

調査対象

「えぶりキッズ」は、重症心身障害児、肢体不自由児、医療的ケア児の未就学児を支援対象としており、登録人数は40名となっている。

調査方法

利用者の家族に対して、家族会で第三者評価の目的や意義をお話しし、利用者調査の協力をお願いした。家族会不参加の家族も含めて調査票を配布し、自宅で回答いただいた上で、評価機関に調査票を郵送してもらった。

利用者総数	40
利用者家族総数(世帯)	40
共通評価項目による調査対象者数	40
共通評価項目による調査の有効回答者数	23
利用者総数に対する回答者割合(%)	57.5

### 利用者調査全体のコメント

「児童発達支援センター えぶりキッズ」に対する総合的満足度を質問したところ、「大変満足」14名(61%) 「満足」9名(39%)だった。満足群はえぶりキッズ利用者全員の100%であった。「職員が子どもの気持ちを尊重して対応しているか」「子どものけがや体調が悪い時の職員対応」などの項目は利用者全員の満足度が高かった。一方、「通園することで社会性が身についてきたか」「子ども同士のいさかいやいじめ等があった際の職員対応」「困った時に職員以外の人に相談できることをわかりやすく伝えているか」では満足度は高いとはいえなかった。コメントでは、「えぶりキッズに通えたことは、我が家にはとても大きいことです。どれほど助けられているかわかりません。こういう通園がもつと増えて、行き場のないお子さんやお母さんが少なくなる(ゼロ)ことを願います」「安心していられる場として、親である私自身も心配事や悩みを相談させていただいており、とても感謝しています。保育士さん、看護師さんたちの優しいお気遣いに毎回助けられています」「これからも障害を持つ子どもの家族に寄り添ってくれる通園施設であってほしいと思います」などのコメントがあった。

### 場面観察方式の調査結果

※場面観察方式の調査結果項目は全サービス共通となります。

調査の視点：「日常生活で利用者の発するサイン(呼びかけ、声なき呼びかけ、まなざし等)とそれに対する職員のかかわり」及び「そのかかわりによる利用者の気持ちの変化」

### 評価機関としての調査結果

《調査時に観察したさまざまな場面の中で、調査の視点に基づいて評価機関が選定した場面》

床にクッションシート(8畳位の広さで、体温調節が難しい子どものために一部ホットカーペット敷き)を敷き、6組の母子(子どもは母親の膝の上に抱かれている)が車座になり「元気だったかな 朝の会 みんなでおはよう」が始まる。車座の中に職員2名が入り、車座の外ではピアノをひく職員1名と実習生が1名。「おはようみんなで握手」では、職員達はおはようの歌を歌いながら車座の中の職員が子ども一人ひとりと握手をしていく。次はコミュニケーションスイッチを使った挨拶で、職員は子ども一人ひとりがスイッチにタッチするよう働きかけていた。

《選定した場面から評価機関が読み取った利用者の気持ちの変化》

「おはようみんなで握手」では職員はピアノに合わせておはようの歌を歌い母親の膝に抱かれた子どもと握手をしていく。職員は一人ひとりの子どもと目と目が合うように対面し、子どもを抱いている母親は職員の子どもの手へ接し方やそれに対するわが子の反応を全身で感じ取っているようにみえた。職員のひくピアノの音や歌声、握手による手の感覚等の刺激に対し、子ども達の様々な反応(むずかっていた子どもがちょっとむずかるのをやめる、緊張したように体を固くする、嬉しそうに手足をばたばたさせる等)を職員は子どもの気持ちになって「できたね」「びっくりしちゃった」「うれしいね」と母親に伝えるよう言葉に出していた。子どもとのコミュニケーションが難しい母親に反応の一つひとつを言葉にして子どもと母親の意思疎通をサポートしているように感じ取れた。母親はわが子の反応だけではなく、職員の声掛けに対し自ら動こうとする他の子どもたちの反応や表情の変化も読み取っていた。朝の挨拶の一コマからも、療育が多様な刺激や働きかけから子どもたちの様々な反応を引き出す場であるとともに、子どもが一番受け止めてほしい母親がその思いを受け止め母親としての喜びを感じとる場となっていた。

## 「評価機関としての調査結果」に対する事業者のコメント

観察場面は、普段の通園で展開されている一場面を見ていただけたと思います。朝の始まりは、気持ちよく過ごす第一歩の大切な時間としての関わりをしています。その結果として、やり取りの中から本人・家族の両者に対し、心地良い働きかけにもつながっていると思われ、今後も朝の時間を大切に関わっていく事をしていきたい。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	22	1	0	0
「事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか」との質問に、22名(96%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名(4%)だった。コメントは少なく、「たくさん遊び、帰ってからよく寝てくれます。楽しく遊んでよく笑うので、肺の機能にも良いと思われそうです」「家族以外にふれあう場は大切」などのコメントがあった。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	22	1	0	0
「事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか」との質問に、22名(96%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名(4%)だった。「帰宅後も反芻するかのようによく笑い、体を動かしたりするので」とのコメントがあった。一方、「個別の活動になることが多いので、その日の利用者やスタッフさんによって、活動内容にバラつきがあるように思います。少しもの足りない様子の時もたまにあります」といったコメントも聞かれた。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	19	3	0	1
「事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか」との質問に、19名(83%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは3名(13%)だった。「通園開始後1年経っていませんが、表情が出てくるようになりました」「まだ(うれしい)とかではしゃぐか泣くだけなので、これから役に立っていくのではないかと思います」とのコメントがあった。				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	15	2	1	5
「事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか」との質問に、15名(65%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」には2名(9%)、「いいえ」は1名(4%)だった。コメントは少なく、「周りをよく見る、観察するようになってきた」とのコメントがあった。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	22	1	0	0
「お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できていますか」との質問に、22名(96%)から「はい」の回答が得られ、「どちらともいえない」は1名(4%)だった。コメントは少なく、「看護師・保育士ともに、毎回よく自宅での様子や気づいたこと、アドバイスをくださるので頼りになります」とのコメントがあった。				

6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	21	2	0	0
「家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか」との質問に、21名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名(9%)だった。コメントは1名のための、プライバシー保護の観点から掲載はしない。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	19	4	0	0
「あなたは、えぶりキッズの生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、19名(83%)から「はい」の回答が得られ、「どちらともいえない」は4名(17%)だった。コメントは少なく、「ティッシュ持参になったのですが、それを置いておくスペースがあると良いと思う」といった声もあがった。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	21	2	0	0
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、21名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名(9%)だった。コメントは少なく、「以前から気になっているし、何度か本人以外のスタッフに言っていますが、ピアスをつけたまま仕事されている方がいらして、すごく気になります。仕事に差し支えないのでしょうか」といったコメントがあった。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	23	0	0	0
「お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、利用者全員の23名(100%)から「はい」の回答が得られた。コメントは少なく、「何かがあると(風邪で休んだ等)詳しく聞いてくれ、状態の確認をしてくれる」といったコメントがあった。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	4	0	3
「あなたは、子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、16名(70%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは4名(17%)だった。コメントは特になかった。				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	16	4	0	3
「あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、29名(94%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」「いいえ」はともに1名だった。コメントは特になかった。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	22	0	0	1
「お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、22名(96%)から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				

13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	22	0	0	1
「お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、えぶりキッズはお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、22名(96%)から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	21	2	0	0
「お子さんの計画やサービス内容など、事業所での生活についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、21名(91%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名(9%)だった。「私自身の理解力の問題かもしれませんが、難しいと思うこともあった。内容によっては、再度確認することも基本的には丁寧です」といったコメントがあった。一方、「その日の様子などを詳しく話してくださる方と、そうではない方がいるので、わかりにくい時もあります」との声も聞かれた。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	18	2	0	3
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、18名(78%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名(9%)だった。コメントは特になかった。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	2	1	3
「あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、17名(74%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名(9%)で、「いいえ」は1名(4%)だった。コメントは特になかった。				

調査対象

重症心身障害者で18歳以上の成人である通園利用者13名を対象とした。

調査方法

利用者の家族に対して、家族会で第三者評価の目的や意義をお話しし、利用者調査の協力をお願いした。家族会不参加の家族も含めて調査票を配布し、自宅で回答いただいた上で、評価機関に調査票を郵送してもらった。

利用者総数

13

利用者家族総数(世帯)

13

共通評価項目による調査対象者数

13

共通評価項目による調査の有効回答者数

4

利用者総数に対する回答者割合(%)

30.8

## 利用者調査全体のコメント

「えぶり」に対する総合的満足度を質問したところ、「大変満足」1名「満足」3名だった。満足群はえぶり利用者全員の4名であった。「子どもの身体機能や健康状態に良い影響を与えているか」「子どもが興味や関心が持てる活動か」「子どもの情緒面での発達に役立っているか」「子どもの様子や支援内容の情報共有」などの項目は利用者全員の満足度が高かった。一方、「子ども同士のいさかいやいじめ等があった際の職員対応」「生活スペースは清潔で整理されているか」「子どもやご家族のプライバシー保護の職員対応」では満足度は高いとはいえなかった。コメントでは、「職員の方々には、大変お世話になっています。初めは少し緊張気味であった我が子もえぶりの生活に慣れてきて、最近ではたくさんの笑顔が見られるようになりました。毎回、通所の時は本人も楽しみにしており、満足そうな笑顔を見るたびに私もうれしい気持ちと皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。後輩たちも安心して通所できるように、少しずつでも受け入れ人数が増えていくことを願うばかりです」などのコメントがあった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、利用者の身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	4	0	0	0
「事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか」との質問に、利用者全員の4名から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				
2. 事業所での活動は、利用者が興味や関心を持てるものになっているか	4	0	0	0
「事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか」との質問に、利用者全員の4名から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				
3. 事業所に通うことで、利用者の情緒が安定しているか	4	0	0	0
「事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか」との質問に、利用者全員の4名から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				
4. 事業所での人との関わりは、利用者の良い影響を与えているか	3	1	0	0
「事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
5. 利用者の様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	4	0	0	0
「お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できていますか」との質問に、利用者全員の4名から「はい」の回答が得られた。コメントは特になかった。				



6. 家族に対する精神的なサポート(介護に関する悩み相談や、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	3	1	0	0
「家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは1名のみのため、プライバシー保護の観点から掲載はしない。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	2	2	0	0
「あなたは、えぶりの生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、2名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは2名だった。コメントは1名のみのため、プライバシー保護の観点から掲載はしない。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	3	1	0	0
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	3	1	0	0
「お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
10. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	1	1	0	2
「あなたは、子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、1名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは1名のみのため、プライバシー保護の観点から掲載はしない。				
11. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	3	1	0	0
「あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
12. 利用者のプライバシーは守られているか	2	1	0	1
「お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、2名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				

13. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	3	1	0	0
「お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、えぶりはお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	3	1	0	0
「お子さんの計画やサービス内容など、事業所での生活についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	3	1	0	0
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	3	1	0	0
「あなたが困ったときに、職員以外の人（役所や第三者委員など）にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、3名から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」と回答したのは1名だった。コメントは特になかった。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○ 非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○ 非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○ 非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○ 非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○ 非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○ 非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">○ 非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	施設や職務別の理念や方針により職員に利用者の成長や生活を支える姿勢を伝えている 児童発達支援センター(以下、通園)は、県立施設として最後の砦の役割を担い、地域では受け入れの難しい重度障害児者の中の生活の場と療育活動を提供し、地域機関と連携して利用者及び家族の在宅生活を支えている。理念・方針及び行動規範は、千葉リハビリテーションセンター(以下、千葉リハ)、総合療育センター、愛育園、各部署での機能や役割に応じて規定されており、掲示、名札に携帯、年度ガイダンスなど、職員として通園で働く使命を確認できる機会がある。利用者家族には保護者説明会などによって通園の思いを伝えている。	
	施設が目指していることに職員が一体となって取り組めるよう経営層自ら語りかけている 千葉リハでは全職員を対象とした講話を毎年開催し、千葉リハのセンター長は経営体制、5か年計画のスローガンや戦略と今年度の実践事項、職員に心がけてほしいことを説明し、その後、園の関係者を対象に園長から理念・方針、行動指針を直接語りかけている。経営・管理者層は、各部署ガイダンスでは、総合療育センター・園の理念や基本方針に基づいた各部署の今年度方針・業務内容、管理体制、会議・委員等の業務分掌、業務内容が具体化された活動計画を説明し、日常の支援現場や会議・委員会においても自ら行動し職員を牽引している。	
	会議の重要な決定事項は全職員へ周知されている 総合療育センターの経営に係る重要案件は、小児幹部会(局長・副部長参加)で議論され小児部門会議(科長以上参加)委員によってはかられて、決定事項は委員より各部署へ通知される。一方、支援に係る案件は、通園科会議で話し合われ、決定事項は申し送りや会議、議事録回覧により全員へ周知されている。利用者の日常の支援に係る話し合いは、随時ミニカンファレンスを開催し柔軟に対応している。個別支援計画については、ケース会議で計画を評価し、多職種によるケースカンファレンスを経て、家族に説明し同意を得ている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評		
<p>ニーズを多面的に収集して職員間で共有・検討し、集約した意見を改善に反映させている</p> <p>毎年実施される利用者満足度調査では、園の利用者の平均満足度は、前回調査を上回り千葉リハビリテーションセンター全体平均よりも高い。アンケート結果は各部署に報告され、振り返りと改善への検討の機会が持たれる。地域ニーズは、相談支援専門員が在宅移行支援から収集したり、県、児童相談所、全国重症心身障害者施設長会議等からも把握して関連する部会で共有している。また、センター企画運営会議では、福祉動向やセンターの経営状況が報告され、伝達事項に対する職員の意見をグループワークなどで集約して運営会議にフィードバックしている。</p> <p>5か年計画は戦略ごとの年度計画が策定され、経営戦略室を中核として進行管理している</p> <p>千葉リハでは指定管理3期目(H28～32の5か年)のスローガン「誰もが街で暮らすために 地域包括ケア時代をリードする総合リハビリセンターへ」の実現に向けた戦略と戦術が掲げられて、地域へのアウトリーチ部門の設置による在宅の重度障害者へのサービス提供や、小児部門では中長期計画に関する現状把握と今後の提案がまとめられるなど成果をあげている。経営戦略室が昨年立ち上がり、ライフステージを通じた障害児医療を担う専門機関として、地域リハビリテーションを充実するための計画策定と実行に取り組んでいる。</p> <p>経営戦略会議で年度計画を管理し、センター全体で効率的経営に取り組んでいる</p> <p>千葉リハでは、経営戦略会議で年度計画の進行や月々の経営進捗を管理・報告している。多職種職員による協働や資質の向上を推進する一方、将来的な建て替えに向けて施設改修は最小限に抑え現状の中で工夫したり、職員から収支改善の提案を募っての経費削減、施設利用率のアップに努めるなど、職員に情報を共有し千葉リハ全体で効率的な経営に取り組んでいる。また、各部署の活動計画は、部局で定めた単位(科、部会・委員会、棟など)により目標と活動内容が立案され、年度末にその評価がされ、次年度のガイダンスで周知されている。</p>		
カテゴリー3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>倫理観の相互理解を大切にし、多職種で不適切な事例を検討・分析している</p> <p>千葉リハには利用者の権利・義務憲章及び「利用者の人格と自己決定の尊重」を筆頭に掲げた臨床倫理指針があり、多職種の倫理観を相互理解することを大切にしている。一方、多職種で構成される愛育園の各棟会議では不適切な支援事例の検討と記録を残し、福祉サービス向上検討会や倫理人権委員会で事例を取りまとめて分析している。福祉サービス向上検討会は、不適切な事例についての倫理的課題点、要因、具体的対策、倫理的判断の根拠を「福祉サービス向上のための事例検討シート」(H30年3月)としてまとめ、職員研修で読み合わせをした。</p> <p>虐待防止マニュアルの改正、研修実施、担当職員配置により接遇の向上に努めている</p> <p>千葉リハの虐待防止マニュアルは、職員のグループワークが反映されており、共通と施設別(理念・方針、行動規範、身体拘束例示)で構成され通報義務の明確化と虐待防止委員会の設置を追記しH30年4月に改正した。職員の振り返りのため研修を実施し、利用者本人の支援につなぐセンター独自の自己チェックシートを再構築したものの実施に至っていないため、その実施に期待したい。また、接遇ネットワークは、各部門で構成される運営委員会が新人と中堅・管理職研修の企画等を行い、部署ごとの接遇トレーナー・リーダーが啓発・指導を行っている。</p> <p>地域の施設への専門的援助技法の指導や入所待機者情報の管理を行い地域に貢献している</p> <p>園は、県内の医療型障害児入所施設6施設による入所待機者情報管理の中核的な役割を担っており、入所待機者調整会議には県障害福祉課、市町村、児童相談所・重心協ソーシャルワーカーが参加し、待機者の情報交換と入所者の決定を行っている。また、地域福祉・医療関係機関からの実習生受け入れや職員派遣等による技術や知識の還元、他施設職員への専門的援助技法の指導等を行い連携している。公開講座では、リハビリ室の見学ツアーやリハビリの最新自助具の体験・展示コーナーを設けるなど、総合リハビリセンターとして地域療育に貢献している。</p>		

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>利用者の安全のために事故分析や感染防止対策を徹底し、多職種が連携している</p> <p>利用者の安全管理の徹底のため、リスクマネジメント部会には、転倒防止や骨折防止のワーキンググループがあり、医療安全管理委員会と共に事故やヒヤリハットの検討・分析を行っている。職員は事故・ニアミス報告書と併せてPDCA記録を作成し、事故の対処と評価を行っている。最重要課題である感染症予防は、各部署の感染係が感染防止対策の実施を確認し、感染予防対策担当者がラウンドチェックや環境調査を行っている。通園では福祉職が看護師から医療ケアを学び、看護と福祉が連携することによりリスクの軽減を図っている。</p> <p>実践的な災害訓練を実施しており、BCPの策定に向け検討を進めている</p> <p>防災訓練は毎月実施し、夜間避難誘導マニュアル等が整備されている。夜間の火災や不審者侵入を想定した訓練を実施し、不審者対策として、防犯カメラ・ブザーを増設し、職員は周囲への意識を高め業務にあたっている。入浴時や火災時の医療機器のトラブルを未然に防ぐため、医療機器をビニールで覆ったり、福祉職と連携した処置を行うなど、対策を講じ実践している。災害時BCPIは、管財室が立案しており早期の策定を目指している。</p> <p>情報の一元化を推進するために電子カルテの導入を検討している</p> <p>個人情報保護や情報公開規定と付随する取扱規定があり、職員には守秘義務遵守や個人情報保護に言及している就業規則、行動規範、職種ごとの倫理規程がある。利用者からは写真・撮影・掲載について媒体ごとに同意書で確認しており、ボランティアには情報漏洩しない誓約を取り交わしている。園内の個人情報に関する電子データはパスワードを設定しアクセス権限を設定している。支援記録をまとめた個人別ファイルはナースステーションに保管されている。指定管理3期目の5か年計画の取り組みとして、電子カルテの導入を含め情報の一元化を推進している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇●)</p>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当



組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

3/3

## 評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

## カテゴリー5の講評

## 職員がチームとして互いに成長する人材育成体制を築いている

千葉リハでは、教育・育成方針を示した人材育成プログラムがあり、教育計画(H27~31)においては次世代リーダー育成計画の完成や各部局の人材育成方針の明確化を目標としている。研修には、院内集合(全職員対象はDVDやYouTubeでも閲覧可、階層別など)、部署、ワーキンググループ、eラーニング、外部がある。新規採用職員には新たな環境に適応できるようプリセプター(新人教育の先輩職員)が付き、チームで支援して互いに成長する育成体制を築いている。また、成果発表会は、園での学びや研究を職員間で共有できる場となっている。

## 職種別に専門性を発揮できる人材育成をめざしている

千葉リハでは、職員が設定した目標を本人及び他者が期末に達成度評価を行う目標チャレンジプログラムがある。看護職は個人別育成計画があり、クリニカルラダー(看護師の能力・キャリア開発指標)到達度チェック表でレベルに合わせた行動目標から課題を見出し、レベルアップしている。福祉職で導入している実践能力段階別到達目標シートは、福祉職共通と職種別があり、求められるスキルが経験年数により5段階に分かれており、目標設定や面談時に活用している。福祉職は看護職の研修体系を参考に、個別育成計画や研修体系づくりに取り組んでいる。

## 多職種によるグループワークの機会を設け、相互理解と連携を深めている

園では、会議や研修でのグループワークに力を入れており、教育計画の中期目標としても小グループ活動の活性化の推進を掲げ、多職種による検討を相互理解と連携につなげている。また、部署、チーム、小グループ、個人の各単位での目標設定により、チームでの役割や目標の到達過程を職員間で共有できている。園は、職員の働きがいのある職場づくりを目指し、夜勤明けの残業軽減策の試行や有給休暇の計画的取得の啓発を行っている。職員の人事評価と給与の連動については、今年度から評価者の研修を実施しており、来年度からの導入をめざしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

児童発達支援センターでは、利用者家族の高齢化に伴い、「親亡き後も今と変わらず愛育園での生活を穏やかに楽しく過ごしてほしい」という願いから、「親亡き後の思いを伝えるノート」の作成を目指し、平成28年6月より保護者と職員によるワーキンググループを立ち上げ、検討を開始した。ノートには、親亡き後の利用者の思いを汲み取る人、成年後見人、医療に関わる親の意思の尊重、本人の葬儀やお墓についてなど、多様な保護者からの意見が反映され、図表などを多用したわかりやすい表記となるよう修正を重ね、平成29年4月に完成した。その後の保護者会において、「親亡き後の思いを伝えるノート」について説明し、保護者全員にノートが配布された。児童発達支援センターへのノートの提出はまだ3件にとどまっているものの、「親亡き後の思いを伝えるノート」をきっかけに、多くの家族から、今までタブー視されてきたお墓や医療同意などの将来について家族で話し合うことができたと感じをいただいている。さらに、療育相談においては、主治医が今後の利用者の治療方針についての保護者の考え方を改めて確認することができるようになった。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

児童発達支援センターでは、利用者のライフステージを視野に入れ、「親亡き後」の家族の不安に真摯に取り組むために「親亡き後の思いを伝えるノート」の作成を行った。この作成に当たっては、保護者も参加することで、保護者より施設に対して今時点での利用者支援においても、気をつけてほしいと思っていること(食事など)についても把握することができた。また、今時点での利用者の将来に対する保護者の考えを聞く機会となり、また保護者に対しても利用者の将来を考えるきっかけを与えることができたことは、大きな成果であった。児童発達支援センターでは、毎年の療育相談において医師が保護者に「親亡き後の思いを伝えるノート」に記載されている事項についての意向を毎年確認することになっている。また、ノートを提出した家族は3名ではあるが、児童発達支援センターでは今後もより一層、保護者の意向の理解を深めていきたいと考えていることから、「親亡き後の思いを伝えるノート」の意義や導入の成果を周知するなど継続的な取り組みに期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

平成24年の障害者自立支援法及び児童福祉法改正により、18歳以上の重症心身障害者は療養介護の対象となり、児童相談所から市町村へ所管が移行したが、従来の児童相談所が提供する児童入所待機者リストが更新されていない。このため、千葉県全域の重症心身障害児者施設の入所待機者情報は管理者が不在になり、現状を把握できない状況が続いた。この状況を打破するため、愛育園が中心となって千葉県内の医療型障害児入所施設6施設による「入所待機者情報管理」の実現に取り組んだ。6施設は、個々の入所待機者との関わりや対応できる医療ケア等を勘案して窓口施設を決め、待機者一人ひとりと自宅や長期入院先に向いて面談を行い、待機者リストの掲載の説明と、それに伴う個人情報提供の同意をとった。入所待機者の情報(緊急性、介護者の意向・状況、児童相談所の優先度、本人の生活状況)と空いたベッドとのマッチングに必要な情報(医療依存度、性別・年齢、居住地、希望施設の利用状況)を勘案して優先度を6段階にグループ分けを行い、県障害福祉課、市町村、児童相談所・重心協ソーシャルワーカーが参加する入所待機者調整会議(月1回)を開催し、入所者を決定することができた。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

重症心身障害児者施設が積極的に待機者の情報管理を担うことで、ほぼすべての待機者家族と面談ができ、本人の状況や家族の思いを汲み取ることができた。また、入所待機者リスト作成により、県全体の入所待機重症児者の状況把握され、数年先を見越した入所調整ができるようになり、小児病棟や新生児集中治療室の長期入院中から支援を開始することによって入所待機児の在宅移行が可能となった。毎月の入所待機者調整会議では、6施設と県、児童相談所、市町村で千葉県全体の待機者の状況と施設の状況を把握することにより、新しい情報を収集し迅速な対応がとれるようになり、優先度の高い入所者の決定につながっている。千葉県重症児(者)を守る会からは、入所の流れの明確化、緊急時の県内施設での入所先調整によって家族の不安が軽減され、在宅生活継続の意欲につながったとの意見が聞かれた。さらに、県障害福祉課や関係機関の呼びかけにより、どこにもつながっていなかった在宅重症心身障害児者の存在が明らかになり、新たな連携が可能になった。また、在宅サービスを整えることで在宅生活の継続が可能になったり、新生児集中治療室や小児科病棟院から在宅移行できたなどの成果が報告されている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>パンフレットやホームページなどで広く施設の事業内容や利用要件などを伝えている</p> <p>児童発達支援センター（以下、通園）は、在宅で重い障害を持つ利用者のために、「えぶり」重症心身障害者生活介護（18歳以上対象）と「えぶりキッズ」医療・福祉型児童発達支援事業（未就学児親子対象）の通園事業を行っている。利用希望者は、併設の病院外来や相談室などに総合療育センターの事業が案内されたパンフレットで確認することができる。また、千葉リハのホームページには、「えぶり」や「えぶりキッズ」の内容が詳しく紹介されている。今後は、より見やすく楽しい内容になるように改善案を募り、リニューアルを予定している。</p> <p>通園の情報は行政や各関係機関へパンフレットや活動発表を通じて積極的に提供している</p> <p>通園では、県立の施設としてまた専門職を配置できる施設として、他施設では受け入れが難しい最重度の利用児や家族への丁寧な対応が求められる困難ケースの利用者を積極的に受け入れて受け入れなければならないと考えており、県や市、療育機関、特別支援学校等にパンフレットの送付を行い、場合によっては、サービスの内容や医療的ケアへの対応状況、利用方法等の情報も提供している。また、全国の重症心身障害者の日中活動を行っている施設による協議会にも参加しており、その場に於いて活動発表や情報交換、情報の提供などを行っている。</p> <p>利用希望者には、家族や本人の状況に配慮した面談や見学を実施している</p> <p>通園では、重度の障害や医療的ケアが必要な利用者だけでなく、幼い子供を同時に育てている家族も多いため、面談対応は自宅訪問や外来の受診時などに実施することもある。また授乳の時間は避けるといったその人の状況に合わせた配慮も行っており、利用者家族の負担の軽減に努めている。見学時には通園している母親たちが職員と共に障害を抱えた家族の不安を少しでも和らげ、ほっとできるように話しかけなどで温かい雰囲気作りを行っており、それが今後の新たな家族の仲間作りや楽しい子育ての実現といった園が目指している支援のきっかけとなっている。</p>		
サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者等の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者等の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者等の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. サービスの終了時には、利用者等の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリ-2の講評

**利用開始にあたって通園が提供できるサービスを丁寧に説明している**  
 通園は、「県立施設として最後の砦の役割を担い、地域で受け入れの難しい最重度の利用児者について障害の重さや医療的ケアの濃厚さでは利用を断らない」との考え方で、新規利用については、他の施設では受け入れが困難な重度の医療的ケアが必要な利用者や入院から在宅への移行が困難な家族などを優先している。利用開始にあたり、通園では各事業の利用案内をはじめ、重要事項説明書、利用契約書を用いて、通園での生活や基本ルール、提供できるサービスなどについて十分な理解が得られるように説明している。

**職員や通園中の親も先輩として温かく受け入れ、利用開始時の不安を取り除いている**  
 えぶりキッズでは、利用開始直後の親子には不安やストレスの軽減のために保育士が親の抱っこの大切さを伝えることや他施設では活動できなかった利用者にもその人に合った活動を設定するなどを個別に対応している。他にも看護師が健康面での不安に応えられるように話を聞くなどを行っている。また、通園中の利用者の親も同じ経験の先輩として温かく受け入れ、賑やかで楽しい雰囲気作りに努めており、職員もその集団にスムーズに入っていけるように声掛けや他の親子への顔つなぎ等を行い、通園全体で新規の親子を支えていく気持ちを大事に支援している。

**利用終了時には、職員が学校等へ同行するなど移行支援をバックアップしている**  
 えぶりキッズ利用者の主な終了理由は、地域発達支援事業所等への移行や卒園後の就学であり、相談支援専門員と共に情報提供や見学、体験、説明会などに同行している。就学に関しては、学校見学会の日程を案内し、希望者を募って職員が同行しており、その際には教育委員会や学校に丁寧に本人の状況を伝えている。就学希望校が決まると受入学校の教員が本人の様子を見学に来園した際に対応したり、さらに職員が学校へ出向いて医療ケアなどの指導するといった流れになっている。家族の移行への不安が軽減したり、安心して就学できる支援につながっている。

サブカテゴリ-3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	11/11
---	-----------------	------------------	-------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

<b>評価項目2</b> 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、利用者等の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を利用者等にわかりやすく説明し、同意を得ている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくえで、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(00)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目4</b> 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(00)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

**サブカテゴリー3の講評**

**利用者の基本情報は、多様な様式を用いて、利用者全体の情報を把握している**  
 利用者への個別対応にあたって、障害の状況や家族関係を含む生活環境を、利用者基本情報、病名・病歴・背景・ニーズなどの情報をフェイスシートやエントリーシートを用いて把握している。家族がADLや身体の気になる部分、困りごとや不安なことなどを記入した「ご利用にあたりご利用者・おさまのことを教えてください」と書かれた日常生活調査用紙や利用希望用紙で意向を確認している。また利用開始後の状況等の情報については、家族との療育相談を記録した経過記録表、通園での様子や連絡事項を記入した通園記録等を用いている。

**個別支援計画は、半年に一回見直され、療育相談の時にニーズの把握と同意を得ている**  
 日々のケース記録は通園日誌にその日の活動や利用者の状況を職種に拘らず当日勤務の職員が記入している。ケース会議は年一回個別支援計画を作成するときに開催されており、通園科会議や日々の振り返りを経て、えぶりでは半年ごとに個別支援計画を評価して、多職種で行うケースカンファレンスで検討し、個別支援計画の目標やニーズの確認をして見直しを行っている。新たな計画案は家族との療育相談の時にニーズを確かめ、同意を得ている。利用者の状態が変化した場合は、速やかに多職種でミニカンファレンスを開催し、計画を変更することとしている。

**今後、個別支援計画に連動した各計画の策定や記録の一元化に取り組んでいく方向である**  
 近年、保育士や看護師、PTなど専門職同士が病院でもなく福祉施設でもない特殊な施設であるということを理解し、お互いの立場を尊重しながら支援ができるようになってきている。また、通所施設であるため毎日保護者と顔を合わせる関係から、問題や要望があってもスムーズに対応したり、専門職同士のミニカンファレンスが臨機応変に行われている。しかし、一人の利用者に対して看護計画やリハビリ計画などが個々に作成されているため、今後は各職種の計画策定や記録が個別支援計画と連動した一元化に向けて取り組んでいく方向になっている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、利用者等の同意を得よう にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 施設内の利用者間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>情報提供同意書を取り交わし、利用者のプライバシーに配慮した支援に努めている</p> <p>通園では、契約時に利用契約書に守秘義務の遵守を明記し、同時に「福祉サービス利用に関わる情報提供についての同意書」を取り交わし、プライバシー保護に取り組んでいる。写真やビデオで使用する目的や掲載・上映場所などの項目を細かく設定した「利用者の写真、ビデオ撮影、掲載等についての同意書」は、利用者が個別に「可・不可」を選択できるようになっている。また、身体介助が必要な場合にはカーテンで仕切るほか、女性利用者の場合には同性で対応して羞恥心に配慮しているが、成人男性には完全な対応には至っていない。</p> <p>倫理人権事例検討会では、不適切な支援をなくす取り組みを行っている</p> <p>通園では、不適切な支援をなくす取り組みとして、チェックリストを定期的実施することやセンター全体で1か月に1回行われている倫理人権検討会での事例を取り上げて改善に向けて多職種で検討する話し合いを行っている。検討会へは職員全員が参加しているため、会の内容を皆で共通理解できており、スムーズな問題解決につながっている。また、倫理人権の他に呼称や家族からの苦情などについてはサービス向上の為に事例検討会でも議題にされており、それらの事例を合わせた「福祉サービス向上のための事例検討シート」を作成してまとめられている。</p> <p>表情やしぐさなどを、家族と共に確認し合い、本人の意思を尊重した支援に努めている</p> <p>利用者の意思決定とは、最重度の障害があっても、自分の気持ちを表情や筋緊張、心拍数などのいろいろな手段で意思を出し、些細な好き・嫌いからでも自分で決めていくことであると園は考えている。職員は、幼児期の利用者が母親以外にも体調の変化やしぐさなどを表出してくることを経験の中から本人の意思だと感じ取ることができるようになり、その表出について母親と共感し、確認し合うことに努めている。また、職員は本人の意思を尊重し、自己決定の実現のために多職種とのカンファレンス等を通し、情報共有して支援に取り組んでいる。</p>		
サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリ-6の講評</b>		
<p><b>法人の理念に基づいた独自の通園科の支援方針や各種マニュアルを作成している</b></p> <p>「療育支援ガイドンス」の、「児童発達支援センター通園科 方針」の中に具体的な活動計画(支援基準)が示されている。また、役割分担などが決められている通園各事業業務ファイルの他に、看護については、共同業務や看護師業務などが記載されている通園独自の「児童発達支援センター看護基準」が作成されている。また、「食事提供マニュアル」は入所部門と合同で作成されており、「温かく安全な食事提供のワーキング活動計画」なども各部門と合同で行っている。マニュアルは、基本的には毎年見直しが行われており、適宜変更を行っている。</p> <p><b>「えぶり」、「えぶりキッズ」の職員が相互の業務を行うことで均一化が図られている</b></p> <p>通園事業の職員は、これまで「えぶり」、「えぶりキッズ」の担当に固定されており、職員が欠勤した時や施設外勤務などがあった場合に急なフォローで支障が出ることもあった。そこで昨年度から主となる事業担当は決めつつも、どの事業にも定期的に勤務することとなった。日頃から互いの事業に勤務することによって支援に伴う情報を共有することができるようになり、互いの事業の職員がその支援についてアドバイスや質問に答え合っており、支援の基本事項や手順の見直しにもつながっている。</p> <p><b>通園では、療育相談や利用者アンケートでサービス事項や支援手順を見直している</b></p> <p>「医療的ケアの最重度の障害児者を育てるご家族の不安や悩みを傾聴し、少しでも軽減できるよう寄り添いながら、我が子が可愛く愛おしいと思える瞬間を療育を通して提供していきたい」と考えている通園では、年1回に家族と行っている療育相談や利用者アンケートでの意見を参考にサービスの変更等の見直しを行っている。特に「えぶりキッズ」では、毎日親と会っているため、支援方法についてはその都度確認し合い、必要があれば見直しを行っている。また家族から介助等で相談があれば職員が自宅へ訪問して在宅介助のアドバイスなどを行うこともある。</p>		



Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		28/28	
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて利用者一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>計画作成に健康は看護師、活動は保育士、生活は介護福祉士が関わり支援している</p> <p>家族とは療育相談(えぶりキッズ年1回、えぶり年2回)を通じてケース担当者が家族や利用者から意向を汲み取っている。計画作成では、健康は看護師、活動は保育士、生活は介護福祉士が専門職として作成時から関わり、同意を得た個別支援計画を各担当者に周知し支援している。個々の利用者の個別支援計画にはニーズ、支援課題、目標(長期・短期)に対する支援内容を「体調の良い時に好きなものを食べる」「遊びを通じて〇〇さんの好きを見つける」「受け入れられる姿勢を取り入れ心地よく過ごす」等と具体的に明記し日々の療育活動に取り組んでいる。</p> <p>利用者の意思表示の手段を追求し、表情や反応から利用者の意思を読み取っている</p> <p>通園では利用者の意思の表出手段を追求し、利用者本位の意思決定を支援することを職員の役割りに掲げている。自らの意思を表出し活動することが難しい重症心身障害児・者に対し、職員は利用者に関わる時は必ずアイコンタクトを取って声掛けをし微細な反応を見逃さず、利用者の気持ちを汲み取り引き出す支援を行っている。在宅では生活維持が精一杯の利用者に対し、年齢や発達段階に応じた声掛けやコミュニケーションツール使って働きかけ、利用者の表情、筋緊張の変化、心拍数等から周囲の変化や働きかけに対する反応を読み取り判断している。</p> <p>就学前には学校見学に職員も同行し、親子が安心できる就学先選びを支援している</p> <p>千葉リハでは県内どこに暮らしていても最重度の児・者が当たり前で暮らせる地域作りを目指し、病院、学校、市町村、相談支援専門員、地域の事業所とも連携し重症児・者の地域での支援体制作り積極的に関わっている。えぶりキッズでは就学前には学校見学職員も同行し親子が安心できる就学先を選び、受け入れ先の看護教員に対し最重度の子どもに対する医療的ケアを含むノウハウを個々に伝えている。今年度、えぶりは特別支援学校の卒業生1名を受け入れたが、在宅で暮らす卒後の通所先として、利用希望に対して空きがなく今後の対応に苦慮している。</p>			
2 評価項目2 利用者が食事を楽しめるよう支援を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者が安全に食事をとれるよう取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 食事の彩りや献立を工夫するなど、食に関心を持てるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 利用者の状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている		○ 非該当

評価項目2の講評

季節ごとの行事食やイベント食などを利用者一人ひとりの食形態に応じて工夫している

食事を楽しみにしている利用者に対し、気候の良い時期は中庭に面したウッドデッキに出て食事をとるなど楽しいひと時になるよう工夫している。また、ひな祭り、子供の日、クリスマスなどの季節ごとの行事食やイベント食も提供し、子供の日には鯉のぼりをかたどったハンバーグやペースト食の上に鯉のぼりの絵を描いたり鯉のぼりの小旗を立てるなど、個々の食形態に応じて工夫している。えぶり、えぶりキッズ独自のイベントとして保護者懇談会で、家族と一緒に焼きそばを作って食べ、食事を通じて利用者と家族が共に楽しめる機会も提供している。

摂食機能等を評価して作成した「食事ケアカード」で安全な食事介助に取り組んでいる

えぶりでは個々の状態に合わせた食事形態(普通、一口大、刻み、極小刻み、ソフト、ペースト)で、口腔摂取や経鼻経管、胃瘻等の利用者に職員は話しかけながら介助している。又、摂食嚥下認定看護師を中心に利用者の摂食機能を評価し、食事内容、スプーンの種類、アレルギーの有無や摂食嚥下機能、介助の注意点や姿勢等を「食事ケアカード」に示し、どの職員も安全な食事介助できるよう取り組んでいる。また、職員は食事介助をしながら常にサチュレーションを確認し、状態に応じて看護師の判断で口腔摂取を経管や胃瘻に切り替えて対応している。

総合療育センターの「温かい食事ワーキンググループ」の食育活動に参加している

えぶりキッズでは職員が家族の注入や食事介助の様子を観察し、「注入量がわからない」といった家族の不安や質問に対し、保育士、看護師、作業療法士による個別対応で段階を踏んだ摂食指導を行い、就学に向け自宅以外の場で安心して食事ができる経験を積み重ねることができるよう支援している。また、保護者会では栄養士がムース食作りの講習を行い、センター全体で行っている「温かい食事ワーキンググループ」の食育活動では、水やりをして収穫したゴーヤや枝豆を調理して食べたり、お月見団子等のデザート作りにもえぶりからも1名が参加し体験した。

3 評価項目3

利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)・非該当1

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 身の回りの支援は、利用者一人ひとりの健康状態や身体機能に合わせて行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等(あいさつ、マナー、交通ルール等)を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 集団活動を取り入れるなど、利用者の心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当
○ あり ○ なし	5. 送迎は、利用者と保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	● 非該当
● あり ○ なし	6. 【入浴を実施している事業所のみ】 入浴の支援は、利用者一人ひとりの健康状態や身体機能に合わせて行っている	○ 非該当

評価項目3の講評

アイコンタクトやスキンシップを欠かさず一人ひとり名前を呼び朝の挨拶を交わしている

えぶりキッズでは利用者の体調に配慮しながら、集団活動を通じて触れる、動く、揺れる、滑る、暗い、楽しい、怖いなどの体験をし、利用者からいろいろな反応を引き出すように関わっている。朝の会や帰りの会の挨拶では親子で輪になり、職員は利用者とのアイコンタクトやスキンシップを欠かさず一人ひとり名前を呼び、反応を受け止め、「できたね」「おどろいた?」と一つひとつの反応に対し言葉で返している。また、重度の障害があっても外出時には靴を履きふさわしい服装で出かけるなど、体調や天候を確認し戸外活動にも積極的に取り組んでいる。

集団療育を通じ利用者同士が関わり、年齢に応じた成長や社会性の発達を促している

通園では医療的ケアや障害の重さでは活動を制限せず、利用者の状態の安定と改善に向け療育を行っている。えぶりでは生活上必要な支援(排泄、整容、移動など)は利用者の身体状況やニーズ等を考慮した上で、常に言葉かけをして利用者の意思や意向を確認し、看護計画と療育計画に沿って看護職と福祉職が協働している。4月の入所式ではえぶりの先輩として新しい仲間を迎え、お花見、女子会、散歩、ゲーム等の集団活動を通じて利用者同士が関わり年齢に応じた成長や社会性の発達を促し、音楽療法、エステ等の個別プログラムにも取り組んでいる。

えぶりでの入浴は、気管切開の利用者や浴後の医療処置を看護師が行っている

えぶりキッズは入浴を実施していないが、えぶりでは週3回(火、水、金)午前中の活動時間に愛育園(入所施設)の浴室で実施している。入浴前のバイタルチェックで健康状態を把握し、安全、安楽に入浴ができるよう配慮し、気管切開の利用者や浴後の医療処置は看護師が対応している。えぶりでの入浴は基本的には1人週1~2回に限られるが、センターでは地域の通園施設や在宅サービス(訪問看護、ヘルパー等)を利用し、利用者、家族が安心して入浴ができるよう、入浴時の医療処置とともに自宅や施設での個々の介助方法のOJTを行い支援している。

4 評価項目4 利用者の健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 日常的に利用者の口腔ケアを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 医療処置や服薬管理は過誤等の防止に向けた取り組みをしている	○ 非該当

評価項目4の講評

家族からの健康状態に関する情報をもとに千葉リハの各担当医師等と連携し対応している  
 えぶり、えぶりキッズともに利用開始にあたり、家族は「日常生活調査用紙」に受診している医療機関(千葉リハ及び他の医療機関、受診している科と担当医、担当作業療法士・理学療法士等)、内服薬・外用薬、骨折の有無、呼吸の状態、てんかん発作、経管栄養や気管切開・人工呼吸器・在宅酸素等の情報を詳細に記載し提出している。また、通園では健康診断(年1回)を行い、日程が合わない場合は問診票を家族に渡し受診結果を提出してもらい、インフルエンザの予防接種は希望者に実施するなど、千葉リハを中心に利用者の情報を共有し連携している。

体調の変化に対しては千葉リハの医師と連携し診療や医療処置が行える体制を整えている  
 えぶりでは送迎時に通園記録(食事・水分量、排尿、排便、体温などを記載)の確認と申し送りを家族と職員間で行い、朝は看護師が検温や健康チェックを行い家族から薬や注入物等を預かっている。えぶりキッズでは、朝は医師が感染症の有無や健康状態を確認したのち、職員は家族と通園記録の内容を確認するとともに当日の体調について申し送りを受け必要な場合は看護師に報告している。どちらも活動中は常に検温を実施し、感冒症状の有無等の体調確認を常に行い、変化が生じた場合は医師に報告し、診察や医療処置等が行える体制を整え対応している。

与薬と注入は看護師が行い、与薬時は2人体制で利用者名や薬名をチェックしている  
 えぶりでは家族が持参した注入物や薬を看護師が個人シート(利用者名と薬や注入物を記載したシート)で確認し、与薬と注入は看護師が行い、与薬時は看護師と職員が2人で利用者名や注入物、薬名を読み上げ個人シートで確認している。えぶりでは持参の歯ブラシを注入ボトルと一緒に消毒し、呼吸器装着の利用者は看護師、他の利用者は福祉職が口腔ケアを実施している。えぶりキッズでは持参した薬等の与薬や注入、口腔ケアは家族が行っている。また、家族には口腔衛生や摂食嚥下の研修(年1回)を行い、希望者には歯科検診(年1回)も行っている。

5 評価項目5 利用者の主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は利用者の主体性を尊重して行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者が安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者の状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当

評価項目5の講評

重度の障害があっても、意思決定能力があることを前提として療育活動を支援している

通園では重度の障害があっても意思決定能力があることを前提として関わり、個々の障害の特性や生活背景を理解し利用者と家族のニーズを見極め、在宅生活で困難な外出(水族館、テーマパーク等)を含む療育活動を提供し、医療的ケア児・者であることで活動を制限しないよう努めている。えぶりキッズでは、トランポリン、プール、散歩などの戸外での遊びや集団遊びを通じて、利用者一人ひとりが主役となって活動できるようプログラムを組み、成長や発達段階に応じた多様な体験から自らの感情を表出できるよう多職種が連携し支援している。

中庭のウッドデッキは開放的で、外気に触れることができる憩いの空間となっている

重症心身障害者の通所施設は児・者一環が多いが、通園では未就学児クラス(親子通園)と成人クラス(18歳以上)に分けて活動している。各クラスとも室内のスペースは限られているが、中庭にウッドデッキを張り開放的で外気に触れることができる憩いの空間を設け、気候の良い時期は食事や外気浴、キッズではプールとしても活用している。今年の夏は「夏到来快適温度は十人十色」を標語に掲げ、空調の吹き出し口を確認し、ホットカーペットや涼しい風が出るマットなども使用し、体温調節が難しい利用者が快適に過ごせるよう個別に対応している。

成人クラスでは仕事を活動に取り入れ、人や社会と関わる機会を持てるよう支援している

えぶりでは今までの活動(ミュージックケア、スノーズレン、エステ、映画、散歩、外出等)に加え、成人クラスとして働くことを日常生活に定着させ、生活リズムを整え人との交流や社会と関わりが持てるよう「お仕事グループ」の活動に取り組んでいる。医療的ケアが濃厚な利用者が、スイッチを握ることで能動的に作業に参加できる道具を工夫し、ハンドミキサーで攪拌し小麦粉を振りクッキー作りを昨年10月から始め、千葉リハでの夏祭りや秋祭り、県内の研修会等で販売している。今後は、野菜の栽培や空き缶つぶし等の仕事にも取り組みたいと考えている。

6 評価項目6

家族との交流・連携を図り支援を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者のサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用者や家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当

評価項目6の講評

「えぶりだより」「えぶりキッズだより」では活動中の利用者の様々な表情を伝えている

通園ではえぶり、えぶりキッズ共に利用時の活動や利用者の様子を通園記録に記載し帰宅時に家族に渡し口頭でも伝えている。通園記録はえぶり、えぶりキッズで書式は異なっているが、共に1日分が1シート(複写式)で家族は自宅での様子を記載し職員に引き継いでいる。えぶりでは利用時の活動内容や利用者の様子、バイタルや食事摂取等を記載し家族には複写を渡している。また、毎月発行している「えぶりだより」「えぶりキッズだより」では活動中の写真やお知らせ、月間予定などを掲載し、家族に通園での活動や利用者の様々な表情を伝えている。

のびのびサロンは、同じ障害を持つ母親同士が情報交換や悩み事を話す機会となっている

えぶりキッズでは集団療育の中で親子が「遊び」を体験すると共に子育てを支援し、母親同士が交流を深めることを通園の目的に掲げている。えぶりキッズの「のびのびサロン」の日は親子分離で保育を行い、同じ障害を持つ母親同士が話をする時間を設け、情報交換や互いに心配事や悩みを吐露しストレスを発散できる機会を作っている。また、親から「生演奏を聴かせたい」との要望を受け職員の提案で母親達と一緒にハンドベルを練習し、子どもたちに聴かせるなど母親達が交流を通じて孤立することなくつながりをもてるよう支援している。

家族の介護力にも配慮し、専門職が自宅を訪問し介護負担が軽減されるよう助言している

通園では年度初めに保護者会を開催し、運営方針や行事予定等を説明し、利用者を担当する各職種の職員を书面で伝えている。年1回の療育相談の他、利用者の変化に対し日々家族が抱える不安や要望を傾聴し心理面にも配慮して、送迎時にも療育相談を受けその都度対応するとともに、相談内容に応じて保育士、看護師、介護士、心理士、作業療法士、ソーシャルワーカー、医師が対応している。通園では家族の介護力にも配慮し、相談支援専門員や介護福祉士等の専門職が自宅を訪問し、介護負担が軽減されるよう住宅改修や福祉機器の導入等の助言も行っている。

7 評価項目7 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○ 非該当
評価項目7の講評		
<p><b>最重度の障害児・者とその家族の最後の砦としての役割りを担い情報を伝えている</b></p> <p>通園では県立施設として最重度の障害児・者とその家族の最後の砦としての役割りを担い、地域での受け入れが難しい利用者を県内全域から受け入れ、併設の相談事業の職員が中心となって収集した情報を、利用者、家族の状況やニーズに応じて活用できるよう協働し働きかけている。えぶりキッズでは「何でも掲示板」に市のイベント情報(キッズ対象の遠足やBBQ等)や障害児・者の親の集い等のお知らせを掲示し、えぶり、えぶりキッズの各部屋の利用者用のポケット付き壁掛けに、地域の関係機関の情報やイベントのチラシを入れて各家族に配布している。</p> <p><b>利用者、家族が不安なく地域の多様な社会資源の利用につながるよう支援している</b></p> <p>地域の他通所施設や訪問看護等の事業所に関する情報提供はもとより、利用する場合は各事業所との情報交換や見学等に職員も同行し、地域の事業所の受け入れ態勢が整い利用者、家族が不安なく地域の社会資源の利用につながるよう支援している。えぶりキッズでは就学に向けて年少から職員が付き添って学校見学を始め、年中・年長までの3年間をかけて一人ひとりが輝ける就学先を決定できるよう相談支援専門員は利用者、家族の意向を行政に伝え調整している。また、保育所等訪問事業や療育等支援事業として他施設や学校に対し個別支援等も行っている。</p> <p><b>利用者の成長と利用者、家族の地域での暮らしを支える地域の療育力の向上に努めている</b></p> <p>通園では地域の関係機関と連携し最重度の障害児・者の受け皿を広げ、地域における利用者、家族の社会参加を促すことを理念に掲げ、県内どの地域であっても必要な支援を受け暮らすことができる地域作りを目指している。千葉リハや通園が持つ療育に関する専門的なノウハウを研修や研究発表等で積極的に発信しているが、利用者・家族が他の通園施設等の利用を希望しても最重度の障害がネックとなる場合も多い。通園では地域の事業所の重症児・者の受け入れを支援し、利用者の成長と利用者、家族の地域での暮らしを支える地域の療育力の向上に努めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画に基づいて利用者一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている
タイトル①	利用者の意思表示の手段を追求し、表情や反応から利用者の意思を読み取っている	
内容①	通園では、利用者の意思の表出手段を追求し、利用者本位の意思決定を支援することをプロの職員としての役割りに掲げている。自らの意思を表出し活動することが難しい重症心身障害児・者に対し、職員は利用者に関わる時は必ずアイコンタクトを取って声掛けをし微細な反応を見逃さず、利用者の気持ちを汲み取り引き出す支援を行っている。職員は、利用者の年齢や発達段階に応じた声掛け共にコミュニケーションツール使って働きかけ、その表情、筋緊張の変化、心拍数等から周囲の変化や働きかけに対する反応を読み取り判断し、支援につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	利用者が食事を楽しめるよう支援を行っている
タイトル②	個々の摂食嚥下機能に応じた食形態で、食事が楽しいひと時となるよう工夫している	
内容②	利用者の摂食嚥下機能に合わせた食形態（普通、一口大、刻み、極小刻み、ソフト、ペースト）であっても、子供の日には鯉のぼりをかたどったハンバーグやペースト食の上にケチャップで鯉のぼりの絵を描き、天気の良い日は中庭のウッドデッキに出て食事をする等、食事が楽しいひと時になるよう工夫している。又、えぶりキッズでは口腔摂取や注入による食事介助に不安を抱える家族に対し個別に対応し、えぶりでは個々の「食事カード」を基に職員は「ブロッコリーかな」と献立を伝えペースト食を一品ずつ混ぜないで食事が楽しみとなるよう介助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-5	利用者の主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	重度の障害があっても意思決定能力があることを前提として療育活動を支援している	
内容③	通園では重度の障害があっても意思決定能力があることを前提として関わり、個々の障害の特性や生活背景を理解し利用者と家族のニーズを見極め、在宅生活で困難な外出（水族館、テーマパーク等）を含む療育活動を提供し、医療的ケア児・者であることで活動を制限しないよう努めている。えぶりキッズでは、トランポリン、プール、散歩などの戸外での遊びや集団遊びを通じて、利用者一人ひとりが主役となって活動できるプログラムを提供し、えぶりでは日中活動に仕事を位置づけ、能動的に作業に参加できるようスイッチなどを工夫しクッキー作りを始めた。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	えぶりキッズでは、親子通園を通して重度の障害を持つ親の不安や悩みを分かち合える母親を主とした仲間作りの支援に努めている
	内容	えぶりキッズでは、新たな利用者親子に対して従来の利用者の親も同じ経験の先輩として温かく受け入れ、賑やかで楽しい雰囲気作りに努めており、職員もその集団にスムーズに入っていけるように声掛けや他の親子への顔つなぎなどを行い、通園全体で新規の親子を支えていく気持ちを大事に支援している。また月に一回「のびのびサロン」の日は午前中に親子が分かれて活動を行い、同じ障害を持つ母親同士が話をする時間を設け、情報交換や互いに心配事や悩みを分かち合い、ストレスを発散できる機会を作ることで、仲間(ママ友)作りの一環となっている。
2	タイトル	多職種がいつでも話し合い支援したり、課題には速やかに会議等を行うことによって、スムーズな問題解決につながられている
	内容	個別支援計画の目標やニーズの確認をして見直しを行っているケースカンファレンスは、現場で常に顔を合わせている多職種が情報を共有して検討し行っている。通園では、多職種が通所施設であるため毎日顔を合わせる関係から入所部門よりも問題があってもその場で解決しやすい環境にあり、ミニカンファレンスの開催もスムーズに行われている。また多職種で検討する話し合いもセンター全体で行っている会議などには基本的に全員参加しているので、話し合う議題の内容をすでに皆が共通理解できており、スムーズな問題解決につながられている。
3	タイトル	県内入所待機者情報管理の中核的役割や地域医療福祉機関への講師派遣や専門的援助技法の指導を担い、地域の療育体制づくりに貢献している
	内容	総合療育センターは、県内医療型障害児入所施設6施設及び県障害福祉課、市町村、児童相談所・重心協ソーシャルワーカーが参加して入所待機者の情報交換と決定を行う入所待機者調整会議や入所待機者情報管理の中核的な役割を担っている。また、地域福祉・医療関係機関からの実習生受け入れや職員派遣等による技術や知識の還元、他施設職員への専門的援助技法の指導等を行い連携することにより、重度の障害児者の地域での受け皿が広がるよう、県立施設として地域の療育体制づくりに貢献している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	通園記録や経過記録は、福祉職や看護職などの多職種が関わって策定された個別支援計画に沿った記述になるように期待される
	内容	通園では、最重度の障害児者に対応し、また丁寧な家族支援に対応できるように経験豊富な福祉や看護職員を配置している。個別支援計画の作成では、健康は看護師、活動は保育士、生活は介護福祉士が専門職として作成時から関わり、ケース担当者は利用者や家族の同意を得た計画を各専門職の担当者に周知し、利用者を支援している。しかし、多職種で記入している通園記録や経過記録は、利用者の健康状態や活動記録などの状態や事実だけの記述に留まっているため、今後は個別支援計画の目標に沿った支援状況を共有できる書式の作成に期待したい。
2	タイトル	法人として、現在の目標管理制度を活かした、新たな人事評価制度づくりを推進しているため、着実な導入を期待したい
	内容	千葉リハには、職員の目標の達成度評価を行う目標チャレンジプログラムがある。看護職の個人別育成計画では、クリニカルラダー到達度チェック表を基に行動目標から課題を見だし、レベルアップを図っている。福祉職の実践能力段階別到達目標シートは、福祉職共通と職種別があり、専門性を発揮できる人材育成をめざしている。法人全体として、人事評価と処遇を連動させる仕組みづくりに取り組み、来年度からの導入をめざしている。今年度からは考課者の研修を実施しており、着実な実行を期待したい。
3	タイトル	利用者本位の支援につながる独自の自己チェックシートを活用し、より一層職員の意識向上への取り組みが期待される
	内容	通園における虐待防止への意識は高く、福祉サービス向上検討会や倫理人権委員会等、多職種で取り組んでいる。「センター虐待防止マニュアル」や「福祉サービス向上のための事例検討シート」など不適切支援事例の分析や倫理的判断の根拠の取りまとめ、日々の「身体抑制評価」や帰園時の皮膚確認などにも取り組んでいる。総合療育センターでは、利用者本人の支援につながるために独自の虐待防止自己チェックシートを作成したものの実施に至っていない。今後は、自己チェックを継続することで、より一層職員の意識向上への取り組みが期待される。